



まちの達人

TATSUJIN

花植えボランティアグループ
「マーガレットくらぶ」

代表 安井 延子

6〜7年前、何気なく広報を見ていた時、市で花植えボランティアを募集している記事が目に入りました。「あっ、これだ！」生来のガーデニング大愛好家の私は、すぐにあちこちの友人、知人に連絡を取り、グループを結成しました。こうして、私たちの花植えグループはスタートしました。

グループの主な活動は、季節ごとの花植え、手入れ、移植のほか、蒲郡まつりや各地域のイベントで行う花苗の無料配布などで、市民の方々に大変喜んでいただいています。

花植えボランティアとして行う作業は、生えそろうた幼苗をビニールポット鉢へ移植したり、咲き始めた花苗を花壇へ定

植することなどです。花壇へは配色、高さ、性質、花期などを計画的に考えて、整然と並べて植えていきます。メンバーは大変な愛好家ぞろいで、熱心に市の係の方に質問や相談などをし、まるで園芸教室さながらです。私自身、このグループに参加してから、種まきから育苗するコツとおもしろさを、ずいぶん学びました。また、毎年、全国各地で行われている「緑・文化士」認定試験にもメンバーのうち何人かがチャレンジしています。まさに、「知識は人生を楽しくする」の例えのひとつかと思えます。

花と緑のある暮らしは、生活に潤いを与えます。家庭の玄関先できれいな花が訪問客を迎えたら心が和みます。観光都市・蒲郡に訪れた人々が、美しい景色と美しい花々を目にしたら、きつと心に残る思い出になることでしょう。

そんな思いを胸に活動しています。

みなさんのご参加をお待ちしています。




水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

水族館の大きな水槽の中には、必ずといっていいほどオブジェとして岩が入っています。この岩の多くは強化プラスチックでできていて、大きなものほどニセモノであることが多いです。

さて、そんなニセモノの岩は、ほうっておくとコケがどんどん付いて汚れてきます。このため飼育員たちは定期的に掃除をしなければいけません。先日、掃除をしていてこれは「菌みがき」に似ているな、と思いました。

デコボコした岩を大きなブラシでこすっていく作業は、みなさんが毎日している菌みがきにそっくりで、実際に口の中でもこんなことが行われ

磨きかたのコツ

ているのだなあ、と思いました。虫歯で歯医者さんに行ったりすると歯の上手な磨き方を教えてくれますが、水槽内にある岩の掃除も磨き方は歯と同じです。

以前は、勢いのみで「とりゃあー!!」と力まかせに磨いていましたが、終わってみるとまったく汚れは落ちてなく、ただ疲れただけでした。反対に、それほど力をいれずに、ブラシをうまく使って丁寧に磨いていた先輩の方がきれいになっていて、なおかつ、まったく疲れていない、というところがよくありました。先輩より頑張っているのになぜ自分はきれいな水槽にならないのだろう、とよく思ったものです。そして、その先輩が使ったブラシは自分のブラシよりずっと長持ちするので

菌みがきも力まかせではなく、ブラシをうまく使って丁寧に磨くと虫歯にならないのでしょね。私もこうした経験から毎日菌みがきに気をつけるようになりました。